

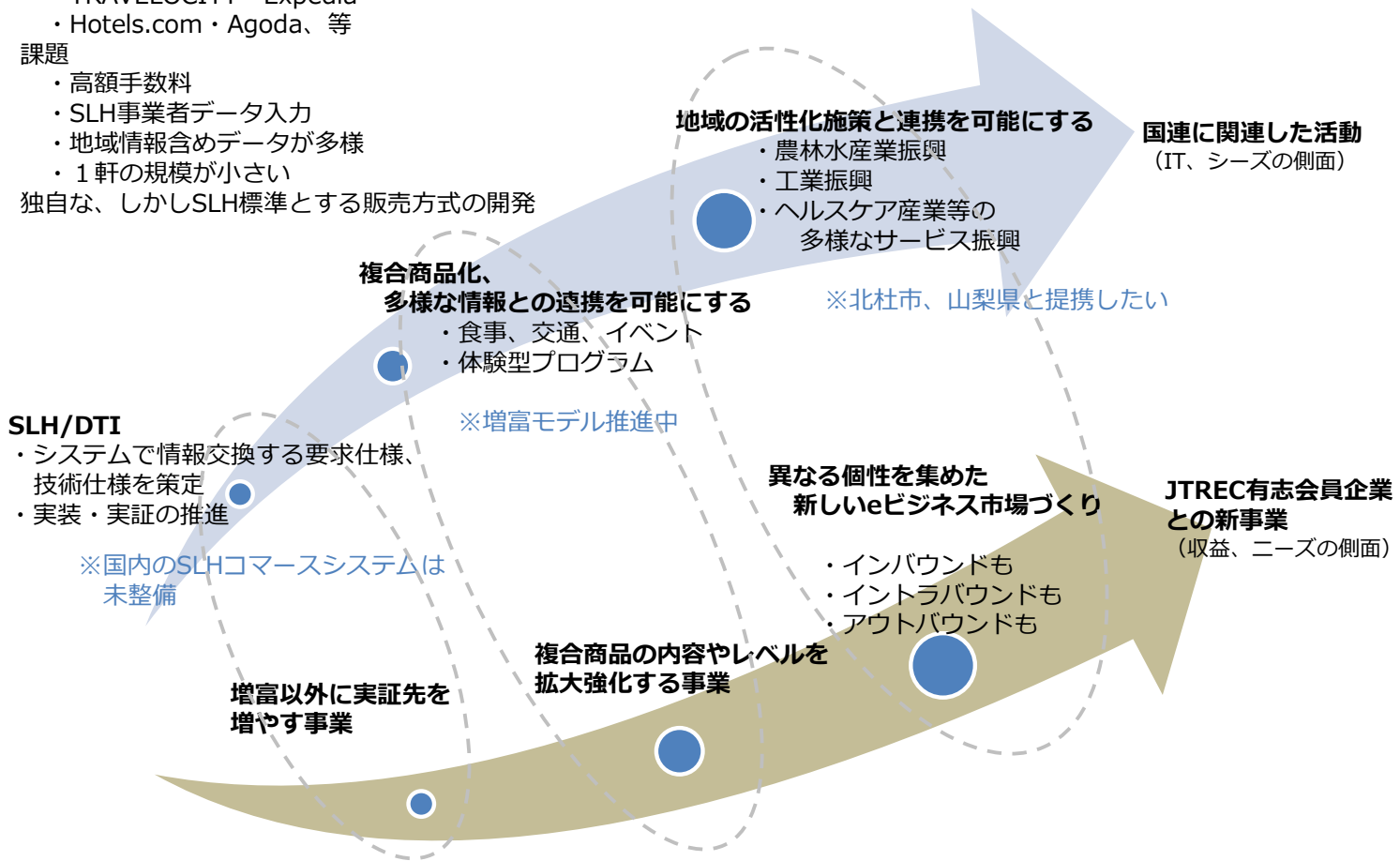
世界中に分散するSLHをサイバー上でeビジネス化する。
方法として既存大手事業者委ねることはできない。

- ・ TRAVELOCITY ・ Expedia
- ・ Hotels.com ・ Agoda、等

課題

- ・ 高額手数料
- ・ SLH事業者データ入力
- ・ 地域情報含めデータが多様
- ・ 1軒の規模が小さい

独自の、しかしSLH標準とする販売方式の開発



SLH のあり方—X

I. SLH の始まり

- * 貿易の合理化を求めて UN/CEFACT として関連業務の情報の流動性を求めて ebXML を用いて、関連業務の普遍的な情報の構造・型式を分析して定めた。
- * 観光も貿易の一分野として参加した（国内において零細観光事業者が観光情報の問題で困惑していた）
- * 先ず宿泊事業を対象として（SLH）から始めた
- * 電子商取引として始まったが、観光分野の特性として取引以外の情報交換が重要で観光情報流通に考え方が変化した（一般の電子商取引も商取引以外の情報交換に変化が求められている）

II. 観光事業の特性・現状

1. 観光事業構成者（サプライヤー）は基本的には弱小事業者であるが、例外的に航空、鉄道、など強大事業者で構成している
2. 利用者も個人が基本で集団も個人の構成による
3. 観光の高度化（文化の発展）により利用者の個人化が進んでいる
4. 中間事業者（観光業）情報の集権化を進め強化に向かっていく（米国などは個散の事業体が多い）
5. 観光は多くの観光要素を組み合わせ旅が出来る
6. 文化の発展と共に個性化、複雑化が好まれる
7. 利用者が一般庶民の為に多言語、多文化に対する対応が求められる
8. 自然・社会全般が観光対象に広がる
9. 交通、中間事業者、情報事業者の強大事業者が観光情報の集権化による利潤を求めて占有している
10. 情報・交通の発展と社会安定により観光参加の障壁が低下し、観光需要が急上昇している
11. 観光関連事業者外からの観光事業への参入が増加している
12. 観光商品は情報と経験で購入され情報化が求められる事業（商品を手にとってからの購入は不可）
13. 観光事業は最終ユーザーとサプライヤーが最終的には直接交流する事業
14. 観光情報の管理が多様化しておりメンテナンスが出来なく、情報、業界の信頼性が低い
15. 在庫情報が多様化しており、チャネルマネージャ成るサービスがあるが、効率が悪く、新たな在庫情報の提供が受けにくく、業界へのサンユウ障壁に成っている。
16. 観光情報の内容の責任者が明確に成っていない
17. 観光コンテンツ、観光情報コンテンツの評価の基準、評価者が明確でない（好き嫌い商品）

Ⅲ. 観光情報流通に求められる事

1. オープン化——>観光情報の公共資源化、——>誰でも、何時でも、何所でも、簡単に利用できる
2. 情報のマルチ利用——>情報 **lct** 的再利用マルチ・ユース、マルチ・リユース——>活用
3. 観光情報監理の一元管理化——>シングルマネジメント（一カ所管理ではない）
 - 発信情報——>情報責任の明確化、情報鮮度、正確度の向上
 - 在庫情報——>効率化、小施設、小単位資源の高効率登録
4. 観光情報、観光情報コンテンツ、観光コンテンツの信用度、信頼度、評価等の向上、明確化
5. 観光情報事業者間報酬の流通手段の提供
6. 観光情報集権化排除、参入障壁排除し、観光事業者の多様化を促進しインベーション環境創出
7. 弱小観光事業者（特にサプライヤー）のオンライン情報参入の障壁を排除し参加の促進を図る
8. 所謂観光事業者以外の事業者に観光参加への促進を図る
9. 自然・社会 全般が観光対象となる情報流通基盤を創る
10. 多言語への対応と基本責任言語の明確化（情報多言語対応、魅力他伝達多言語対応）

一般論（普遍的考え方）の背景

- I. 多様性の中から、イノベーション（突然変異）は生まれ、多様性は集団（生命）持続力の根源
- II. 集団は**個散型**（Long-Tail）と**集権型**（Big-Head）に分けることが出来る
- III. 個散型と集権化を分ける力は情報的要因と物理的要因に分けることが出来る
- IV. 情報的要因を動かすのは情報の流動性の向上であり次の6段階に解られると言われている
 1. 原簿の習得（人類の初め）
 2. 文字の発明（四大文明？）
 3. 印刷の発明（グーテンベルク）
 4. 電信の発明（ベル）
 5. インターネットの開放（情報発信障壁除去）
 6. ブロックチェーンの活用（信用・信頼情報情報流通？）
- V. オープン志向の仕組みに**個散型**が生きることが出来る

事業体

- I. 事業体は**大集権型**（Big-Head）と**小個散方**（Long-Tail）に分けることが出来る
- II. **小個散型**の多様性の中にイノベーションが生まれ、社会の発展に繋がる
- III. 大集権化には3つの吸引力がある
 1. 物理的要因（ex. 航空事業、鉄道事業、電力事業、等）
 2. 情報的要因（**lct**の発展と共に障壁が下がっている）
 3. 大集権化の覇権により収益を求める力

2017年03月15日

JTREC 坂井永一

注）造語は斜文字で標示している